

令和5年度 第2回 住吉区地域福祉専門会議 会議要旨

1 日 時 令和5年11月2日（木） 午後6時から午後8時

2 場 所 住吉区役所 4階 第4・5会議室

3 出席者

（委 員）

稲田委員、尾畑委員、田中委員、西田委員、八牟禮委員、濱本委員、藤居委員、
藤本委員、松岡委員、宮川委員、山下委員

小野アドバイザー

（区役所他）

区長、副区長、関係課長、課長代理、担当係長

住吉区社会福祉協議会 事務局長、地域支援担当係長

4 議 題

報 告

（1）住吉区地域見守り支援システム進捗状況について

議 事

○ 「住吉区地域福祉ビジョン」改訂案骨子について

5 議事要旨等

○「住吉区地域福祉ビジョン」改訂にあたり、事務局素案をお示しし、基本理念、基本目標、各項立てについて委員意見をいただいた。

主な委員意見

○福祉は、マイナスをゼロにするということに留まらず、一人一人の幸せまで考える。よりプラスのものをめざしていくこと。

「ウェルビーイング」や「幸福」という考え方が福祉の世界で広がってきている。

住吉区ではそうしたプラスの土壌ができあがっている。今度は具体的な成果を作る段階にあると思う。

○今回の基本理念は、よりポジティブな方向を向いているように見受けられる。そういう方向でぜひ住吉の地域福祉を考えて、活発な意見の積み重ねができればいい。

○分野、制度、世代の3つの枠組みを超えたようなイメージが必要。

最終的には「自己肯定感の醸成」に尽きる。基本理念や基本目標をこなしていくとそこにつながると思う。

○「つながり・見守り・支え合いシステム」図や全体の総枠がイメージできるものがあるとわかりやすい。

○支える側の話が結構中心になっている気がする。「自己肯定感の醸成」は非常に重要で、「主人公」というキーワードでいくと、自分がこんな主体的な活動ができるんだというイメージを描く必要があると思う。

- 「ゆるやかなつながり」とあるが、イメージするのが難しい。支えられている人たちも含めた言い回しができればいい。
- 「ゆるやかなつながり」にひどく心を惹かれた。大多数の福祉を必要としない人たちも含め、区民全体がそういう気持ちになってもらいたいという表現と感じた。
- 「ゆるやかなつながり」を「渚」のように海と陸の境を行ったり来たりするような表現をする人もいる。しんどい時は来ていいよ、そうじゃないときは違うところにいいよ、というつながりと理解した。
- 「まんなか」という言葉が多いがちょっとしっくり来ていない。住民主体の意味と思うが何か弱い。「まるごと」という言葉も非常にわかりにくい。前のビジョンは具体的だったが、今回はすごく抽象的な感じがする。
- 福祉とは、社会的弱者の話をしっかり聞いて、幸せにつなげることが基本だと思う。
- 「地域のしあわせ（福祉）」の「(福祉)」がわかりにくい。
- 「ひとつのイメージは」から「グループ全体の環境への適応力が高くなります」ぐらいがよくわからない。すごいわかりやすい部分と「まるごと」などわからない部分がいくつかあった。
- こういった熱い思いが行政サイドにもあることが心強い。文字が多いと読み飛ばされてしまうので、イラストなど入れたらイメージが伝わりやすい。言葉より視覚的に見せると理解が深まる。
- 独居高齢者を見守りたいと思ってもどこに住んでいるか情報がない。
- 障がい者やこどもは長い文章は読まないなので文字を減らしたほうがいい。
- 「まるごと」とあるが、人はまるごと支えてほしいと思っていない。困ったところだけ支えてほしくて、あとは放っておいてほしいと思っている。
- 「気になるなあ」はすごくわかりやすい。近くの公園に気になるこどもたちがいるが、その後どうするかを具体的に書いてもらえればありがたい。
- 「わがごとまるごと」などの地域共生社会の説明で使われる行政用語、住民には伝わりにくい。どう発信していくか見えてきている。
- 住吉区の地域福祉ビジョンはもっとポジティブなものであっていい。
- 「住民主体」と「利用者主体」は本来別のもの。
- 改訂版完成後に、例えばこどもと一緒に「こども版」ビジョンを作ってもいいのではないか。

6 令和5年度の開催日程について（予定）

第3回 令和6年2月22日（木） 午後6時から